

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.12, No.1

巻頭言

テラヘルツテクノロジーフォーラム会長 萩行正憲

フォーラム会長 2 年目を迎えて

昨年度からテラヘルツテクノロジーフォーラムの会長の重責を引き受けてはや 1 年が経ち、2 年目に入りました。何もしないであつという間に 1 年が過ぎてしまったという思いですが、テラヘルツテクノロジー自身は、やや停滞していた時期 (?) を過ぎて、新たな展開が見え始めてきたように感じられます。毎年の IRMMW-THz 会議の国別参加者数を見ると、主催国以外では日本が最も多く、発表の内容も質が高いと感じます。このようなテラヘルツ分野における我が国の高いアクティビティは、吉永先生、三石先生、西澤先生などの先駆的な研究があつて、それらを引き継いでまとめる形でテラテクや学振の産学協力研究委員会がこの分野を牽引してきたからであろうと思います。昨年の IRMMW-THz では阪井前会長が Button 賞を受賞されて、記念講演では 1950 年代から現在までの我が国のテラヘルツテクノロジーの発展について紹介されました。また、最近、J. Infrared, Millimeter, and Terahertz Waves 誌に、それ以前のテラヘルツテクノロジー（遠赤外と呼んだ方がしっくりする方もおられると思います）の発展に関する三石先生の論文（日本赤外線学会誌に掲載されたものを阪井先生が訳された労作）が掲載されました。会員の皆様には是非ご一読いただけたらと思います。2012 年に奈良で開催された International Symposium on Frontiers in Terahertz Technology (FTT 2012) の発表論文から選りすぐられた論文を集めた論文集が、J. Infrared, Millimeter, and Terahertz Waves 誌の特集号として発行されました。これも合わせてお読みいただければと思います。

さて、最初に書いた新たな展開というのは、もちろん、テラヘルツ分野の研究自身の進展もさることながら、アドバンテスト社がテラヘルツを事業部門として立ち上げたこと、情報通信機構が総務省のバックアップを得て「テラヘルツ波コンソーシアム(仮)」を立ち上げるとのこと、テラテクが主体として提案した JST の産学共創基礎基盤研究プロジェクトが伊藤 PO の熱心な運営努力のもと、多くの成果を出しつつ、新たなプロジェクト募集を行っていることなど、があります。JST のプロジェクトには、私もアドバイザーとして参加させていただいていますが、何とか、10 年間のプロジェクト終了時には、「テラヘルツでイノベーションを」という皆さんの思いが感じられます。

私も大学人としてあと 4 年で定年を迎えます。10 年あまり前からコンパクトデジカメで日常の写真を撮ることを趣味としていますが、このデジカメもソニーの「マビカ」以来、現在の形になるまでは悪戦苦闘であったと思います。液晶もまたしかり。写真を整理していたら、2003 年 5 月 16 日（テラテク設立の少し前）の会議の写真が出てきました。阪井前会長は変わりませんが、私は髪が白くなり、相当劣化が激しいです。海のものとも山のものともわからない時代を信念と情熱で乗り越えてこられた先達に感謝の気持ちでいっぱいです。

